

衣生活の管理に関する研究

岐阜女短大 ○山田 令子 三重短大 伊藤五子 松阪女短大 上島 雅子
 愛知学泉女短大 倉橋久子 名古屋市立女短大 佐野 恂子
 東海学園女短大 辻啓子 愛知淑徳短大 土田 正子
 岐阜大教育 中野 刀子 山田家政短大 旗美代子

目的 社会環境の変化は生活のあらゆる分野に波及し、それに伴って衣生活に対する考
 え方も変化し、人々はそれぞれの個性や価値観に応じて、多様な生活を営むようになった。

われわれの所持している被服には、現在使用しているもの、季節外のもの、死蔵されて
 いるものの3つに大別されるが、これらの被服を、それぞれ手入れ、保存、改良、処分し
 て衣生活が営まれている。これらの一連の行動を被服の管理とし、この被服の管理が、各
 家庭ではどのようにされているかの現状を把握することを目的とした。

方法 1) 調査対象 20歳以上の女性 428名 2) 調査時期 昭和60年5月下
 旬～6月下旬 3) 調査方法 郵送留置法によるアンケート調査 4) 調査内容 年齢
 居住地 家族構成 住居の形態 職業 家庭の年収 最終学歴 被服の管理行動 被服の
 管理に関する情報 被服観 被服の購入態度 次代に伝達する技術の程度

結果 1) 管理行動の単純集計の結果、家庭での日常の手入れ(アイロンかけ、のりづ
 け等)はよくなされていた。また、着用しない被服の保管率は高いが、リフォーム等の有
 効利用はされていない。2) 年代、職業、家族型別と各項目間とのクロス集計の結果、差
 の大きくみられたものは、職業の有無であった。有職者は布団を日光に当てたり、リフォ
 ーム等時間を要することはあまりされていないが無職者はよくしている傾向にあった。